

光星スタンド歓喜



チームの勝利に沸く選手の保護者ら＝12日、甲子園球場

八戸学院光星高が全国高校12日、甲子園球場の三塁側ア野球選手権の初戦を突破したルプススタンドでは、応援団

生徒、保護者 勝利後押し

がグラウンドで戦うナインにして頑張つて」と笑顔を見せ、大声援を送り、勝利を後押しした。生徒約220人に加え、OBや保護者らが集結。序盤は両チームが接戦を展開したこともあり、固唾をのんで試合を見守った。熱が一気に高まったのは五回の攻撃。砂子田陽士選手が均衡を破る先制の2点適時打を放つと、メガホンを打ち鳴らして喜びを爆発させた。砂子田選手の父研二さん(66)は「調子が上がっていないようだったが、大事なところで打つてくれて感動した」と頬を緩めた。七回には藤原天斗選手に3点本塁打が飛び出し、応援団のボルテージも最高潮に。同校3年の原理得さん(18)は「選手の気持ち伝わってきて、応援にも熱が入る」と声をからし、「粘り強く戦っていた選手たちの姿は格好良い。次も一人一人が主役と

板した富井翼さん(18)は「2回戦で敗れた」去年よりも上になってくれてうれしい」と笑顔。自身は近く渡米して米国の大学でプレーする予定だ。スタンドには、甲子園の土を踏んだOBの姿もあった。破顔。自身は近く渡米して米国の大学でプレーする予定だ。去年、投手として2試合に登

八戸の現地に負けじ 大声援



7回に3点を追加した場面で立ち上がって喜ぶ在校生ら＝12日、八戸学院光星高

留守部隊 八戸学院光星高がノースアジア大明桜(秋田)との初戦には運動部員と教職員ら約40人

が集まり、大舞台で戦うナインをテレビ画面越しに応援した。投打がかみ合い、初戦突破を決めると、歓喜の音が広がった。生徒らはバルーンを両手に持って観戦。序盤の緊迫した戦況は固唾をのんで見守った。五回に先制すると、生徒らはバルーンをたたいて大歓声。七回に3ランで6-0と突き放すと、最高潮の盛り上がりを見せた。女子バスケットボール部の越後谷七海主将(3年)は「懸命な姿にパワーをもらった。光星らしい活気あるプレーで優勝してほしい」と期待を寄せた。(磯野雄太郎)